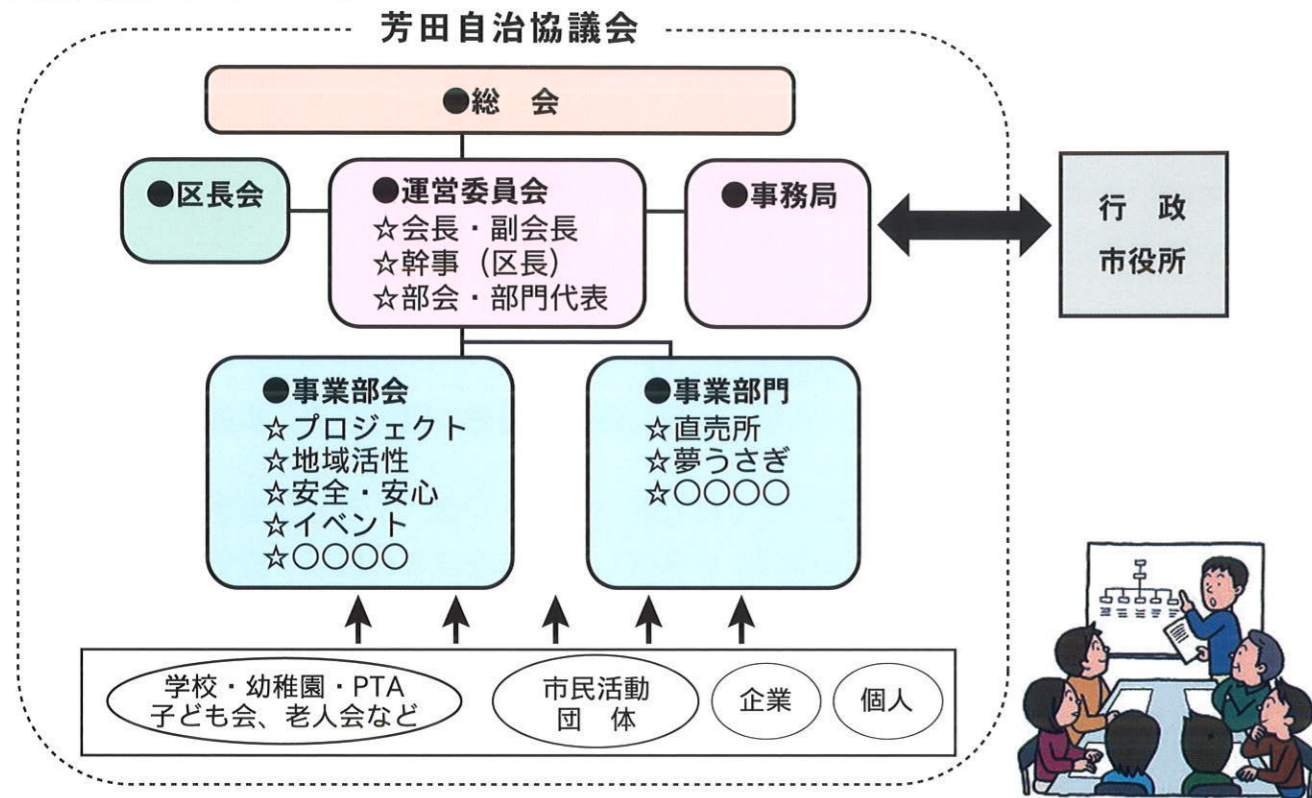


4 持続するまちづくりのマネジメント

●組織と運営の充実

- ・芳田の持続するまちづくりのために、芳田ふれあい会議の組織と運営を充実します。
- ・より広範な団体や人の参画によるまちづくりのために、区長会と芳田ふれあい会議の組織の今後のあり方を検討するとともに、地域の実情に即した地域自治協議会への移行を検討します。

《自治協議会のイメージ》



人にやさしく 自然にやさしく 夢ひらく里 芳田

—法太の里“ゆめ”プラン2015(概要)—

芳田地区は、播磨風土記の昔から続いてきた、自然、歴史、人に恵まれるところです。近年、人口の減少と高齢化が進み、少し元気がなくなりました。商店や公共施設も少なくなり、やや暮らしにくくなりました。若い人は、子育ての環境に満足していますが、子どもたちの未来に少し不安です。

芳田地区では、「芳田地区まちづくり計画」(平成18年11月)にもとづき、芳田ふれあい会議が中心になって、思いやりと活力あるまちづくりを熱心に進めてきました。その結果、ふれあい事業、花いっぱいのもちづくりを進める夢うさぎ、ふれあい直売所も生まれました。この流れを絶やすことなく、暮らしやすく、若さや元気もあり、次代にバトンタッチできる芳田づくりを進めていく必要があります。

「芳田の里“ゆめ”プラン2015」は、計8回の意見交換会を通じて、芳田地区が約10年先にこうありたいと願ってつくったビジョンです。このビジョンをもとに、芳田の魅力や資源を活かし、行政・企業・市民活動団体などいっしょに、新しい芳田づくりに取り組みます。

みなさんの参加・協力をお願いいたします。

平成28年(2016年)3月 法太の里“ゆめ”委員会
代表 長谷川 大一郎(芳田ふれあい会議会長)



角尾山



花いっぱい運動



ふれあい直売所

まちづくりの手順

平成28年度から、主に次の事業に重点的に取り組みます。

	1～2年	3～5年	6年～
●ふらりと集まれる交流の場づくり	●準備会設置、利用・運営の研究、調整	●改修整備、活動・運営スタート	
●若者～高齢者が暮らしやすいまちづくり	●生活用品の拡充(直売所)	○移動手段の検討→実現 ○支え合いの仕組みづくり	
●ふれあい直売所の拡充	●商品の充実、組織・運営再編、看板等の整備	●商品・機能、施設・環境の拡充	●道の駅登録
●芳田の特産品と観光の開発	●研究(特産品・観光開発、情報発信など)	○観光情報の提供(マップなど)	○道の駅観光拠点化
●組織と運営の充実	●組織・運営に関する協議	●組織・運営の拡充・再編	

平成28年(2016年)3月 法太の里“ゆめ”委員会
西脇市岡崎町172-28(芳田の里ふれあい館) 電話:0795-27-0658

●法太の里“ゆめ”委員会のあらまし

月日	内容	会場	会議の様子
7月27日	「芳田を知ろう」 芳田の資源・魅力、問題・課題	芳田の里ふれあい館	<p>意見交換と発表</p>
8月27日	「前計画の評価」 できたこと・できなかったこと	芳田の里ふれあい館	
9月29日	「こんな芳田をつくりたい」 目標像と取り組みの内容	芳田の里ふれあい館	
10月8日	「若者会議」 思っていること・こんな芳田にしたい	芳田の里ふれあい館	
11月26日	「まちづくりの進め方」 中心プロジェクトをどう進めるか	芳田の里ふれあい館	
12月15日	「“ゆめ”プランの検討」 プラン骨子の説明と意見交換	芳田の里ふれあい館	
1月23日	「先進地の視察」 公共施設跡地のコミュニティ活用例	里山工房くもべ	
2月13日	「計画の共有」 まちあるき	芳田の里ふれあい館	
3月17日	「計画の共有」 プランの発表	芳田の里ふれあい館	<p>先進地視察</p>

まちづくりの目標と方針

《目標》

人にやさしく 自然にやさしく
夢ひらく里 芳田

《方針》

芳田の力をつ
なぎ、外に向
かって発信

新しい芳田の
核を育てる

ふれあいと
まちづくり
マネジメント

みんなで取り組むこと

1 ふれあいのある美しい芳田づくり

●自然ゆたかな、美しいまちづくり

- 山・田圃・集落がつくる美しい田園風景をこれからも守り・伝えます。
- 「クリーン作戦」「花いっぱい運動」「イルミネーション」など美しいまちづくりを続けます。
- 角尾山が人々に親しまれるよう、登山道の整備などを続けます。

●芳田をつなぐ交流プログラムの開催

- 芳田の人々をつなぐ交流プログラムを今後も進めます。
例：ふれあいまつり、芳田ふれあいスポーツフェスティバルなど
- 芳田の魅力の再発見やまちづくりにつながる新しいプログラムの企画開催も進めます。

●ふらりと集まれる交流の場づくり

- 現保育園跡地等を利用して、いろいろな世代が交流できる場を育てます。

《利用イメージ》

- 多世代が集まって利用できる場（ママと子が過ごせる／子どもの学習と生きる・考える力を養う／駄菓子コーナー／グループで使える）
- カフェ＆ライブラリー（お茶、読書、軽食、談話）
- イベント（セミナー／フリーマーケット／おもちゃ・本交換／星の観察）
- 住民による運営と支援（おやじの会、シニアなど）、入口の坂の解消など
- ふれあい直売所、認定こども園との連携



芳田クリーン作戦



芳田ふれあいまつり



芳田保育園



跡地利用の例
（篠山市里山工房くもべ）

2 安心して、夢をもって暮らせる芳田づくり

●若者～高齢者が暮らしやすいまちづくり

- 買物が困難な高齢者～若い人が芳田で楽しく暮らせる環境をつくります。
例：ふれあい直売所の拡充、オシャレな店の誘致、長期的に移動販売
- 通院等が困難な高齢者等のために、移動手段の整備について検討します。
例：地区による送迎ワゴン車などの運行
- 山や田の管理が困難な世帯を地区で支援する仕組みについて検討します。
例：田んぼの管理の受付窓口設置、草刈り十字軍など
- 災害に強い地域づくりのために、消防団への加入を勧め、応援します。



移動販売の例（西脇市比延地区）



送迎バスの例（丹波市市島町）

●子どもが夢をもって学び・育つまちづくり

- 子どもが笑顔で育つよう、家庭・学校・地域の連携、見守り隊の充実、歩道や防犯灯の整備などを進めます。
- 芳田に魅力を感じ、芳田の力になってくれる若いUターン者、Iターン者を増やします。
- 芳田の魅力（自然、少数学級、近隣関係）を発信し、空き家情報の収集・提供なども進めます。

3 仕事と情報発信のある芳田づくり

●ふれあい直売所の拡充

- ふれあい直売所が買物、休憩・交流、情報提供などの場として、多くの人に利用されるよう、商品・サービス、組織運営などの充実を進めます。
例：商品（野菜・果物・米、加工品など）、目玉づくり、観光情報の提供運営の検討（日・時間、法人化、有償化、保育所跡地等と連携など）
入りやすい環境づくり（道からのアクセス、雰囲気、看板）
屋外の利用（オープンカフェ、ピザ釜など）
- 将来的に「道の駅」への発展をめざします。



ふれあい直売所

●芳田の特産品と観光の開発

- ふれあい直売所、事業者、U・Iターン者などと連携して、特産品の開発、カフェ・レストランなどの立地を進めます。
例：イチゴジャム、窯焼きピザ、酒・ワイン、鹿肉レストランなど
- 芳田めぐりをしてもらえるよう、芳田の情報を収集・発信します。
例：マップ、カード、チラシなどの配備、インターネット・SNSなどを利用した情報発信



カフェとスタッフ



ホームページの例
（篠山市里山工房くもべ）